

ADVANTEST[®]



2024年度（2025年3月期） 第2四半期 決算説明会

2024年10月30日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。

サマリー

FY24 2Q業績

- 売上高/営業利益/当期利益： 四半期ベースで過去最高を記録
 - ✓ 部材調達および製品供給能力の確保に努め、AI関連の高性能半導体向けの旺盛なテスト需要に対応

FY24 見通し

- FY24 2Qの実績に基づき、通期業績予想を上方修正
 - ✓ HPC/AI関連半導体向けの旺盛なテスト需要が継続する見通し
 - ✓ HPC/AI関連以外の市場向け半導体テスト需要は、依然として回復に遅れ

自己株式の取得

- 株主還元と資本効率向上のため、500億円または900万株を上限とする自己株式取得を実施予定

○ サマリー

- ・ 私、ダグラス ラフィーバより、今回の発表のサマリーを説明いたします。
- ・ まず、FY2024 2Qの決算についてです。当2Qは、売上高、営業利益、当期利益が四半期ベースで過去最高となりました。四半期ベースでの営業利益率の30%超えはFY2022 2Q以来となります。
- ・ 当社は、旺盛なAI向け高性能半導体のテスト需要に合わせ、顧客のテストキャパシティニーズに向けた製品納入を実現し、過去最高の売上高を達成いたしました。また、売上の増加に伴い、前四半期比で収益性が改善いたしました。
- ・ 次に、FY2024の見通しについてです。
- ・ 当2Qの結果を踏まえ、通期の業績予想を上方修正いたします。
- ・ HPC/AI関連半導体の旺盛な需要は、FY2024を通して継続すると予想しております。一方、HPC/AI関連以外のテスト需要の回復は、依然としてスローです。
- ・ 最後に、自社株買いについてです。
- ・ 当社は、株主還元の強化と資本効率の向上を目的として、最大500億円もしくは最大900万株の自社株買いを実施いたします。
- ・ それでは、当2Qの決算について、三橋より説明いたします。

2024年度第2四半期 決算報告

経営執行役員 CFO & CSO (Chief Strategy Officer)
経営戦略本部長
三橋 靖夫

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST[®]

四半期業績推移

(億円)

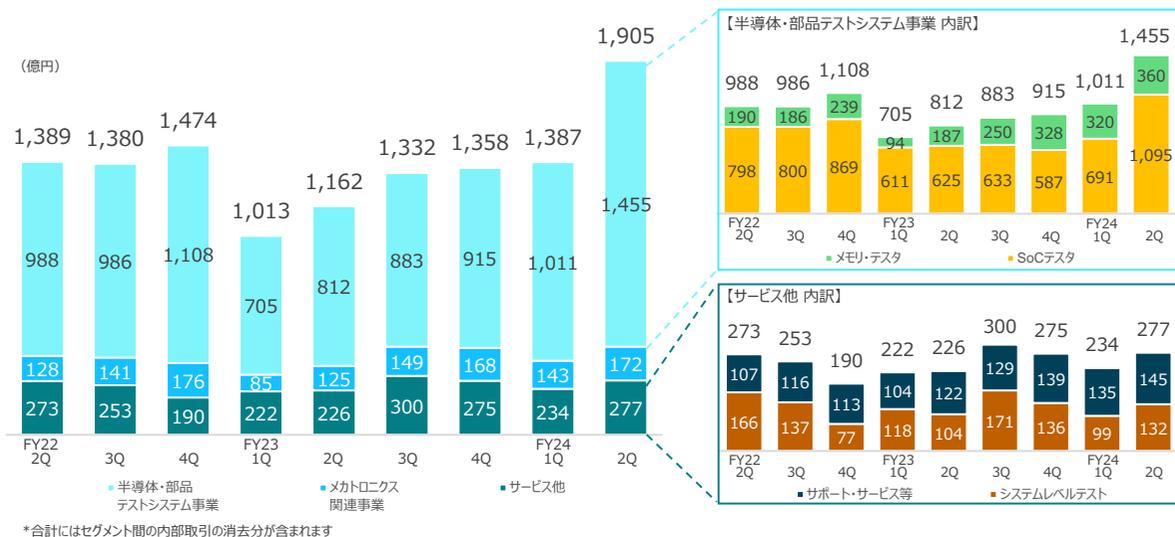
	FY23				FY24							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		前期比		前年同期比		
						予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率	
売上高	1,013	1,162	1,332	1,358	1,387	1,533	1,905	+518	+37.3%	+742	+63.8%	
売上総利益	510	580	674	696	769	-	1,101	+332	+43.2%	+520	+89.6%	
売上総利益率	50.3%	49.9%	50.6%	51.3%	55.4%	-	57.8%	+2.4pts		+7.9pts		
営業利益	143	210	268	195	313	357	636	+322	2.0倍	+425	3.0倍	
営業利益率	14.1%	18.1%	20.1%	14.4%	22.6%	23.3%	33.4%	+10.8pts		+15.3pts		
税引前四半期利益	130	203	263	186	319	356	607	+288	+90.2%	+404	3.0倍	
四半期利益	92	167	212	152	239	267	454	+216	+90.5%	+287	2.7倍	
四半期利益率	9.1%	14.4%	15.9%	11.2%	17.2%	17.4%	23.9%	+6.7pts		+9.5pts		
為替レート	1米ドル	135円	142円	149円	147円	153円	140円	154円	1円 円安		12円 円安	
	1ユーロ	146円	156円	159円	159円	165円	155円	168円	3円 円安		12円 円安	
1株当たり配当額*1	-	16.25円 (65円)	-	18円	-	19円	19円	-		-	+2.75円	

*1:当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。上記1株当たり配当金はFY23期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています。(カッコ内は分割前の値)

○ FY2024 2Qの業績概要

- 2Q実績は、高性能半導体向けの高水準なテスト需要が継続する中で、想定以上の製品納入を行うことができました。売上の増加と共に、対米ドルにおける円安の進行も追い風となり、利益も前期を上回る結果となりました。
- 詳細は以降のスライドで順次ご説明いたします。

四半期売上高 事業セグメント別



○ FY2024 2Qの売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・ SoCテストは、前期比405億円増の1,095億円でした。
- ・ HPC/AI関連での先端プロセス品向けの売上が大きく伸びたことから、売上が増加しました。HPC/AI関連は、サーバーだけではなく、AI搭載パソコンや車載プロセッサ向けなどでの販売も増収に寄与しています。他方で成熟プロセス品向けでは、低調な売上が継続しています。
- ・ メモリ・テストは、前期比39億円増の360億円でした。HBMを中心とした高性能DRAM向けの高水準な需要が継続しました。

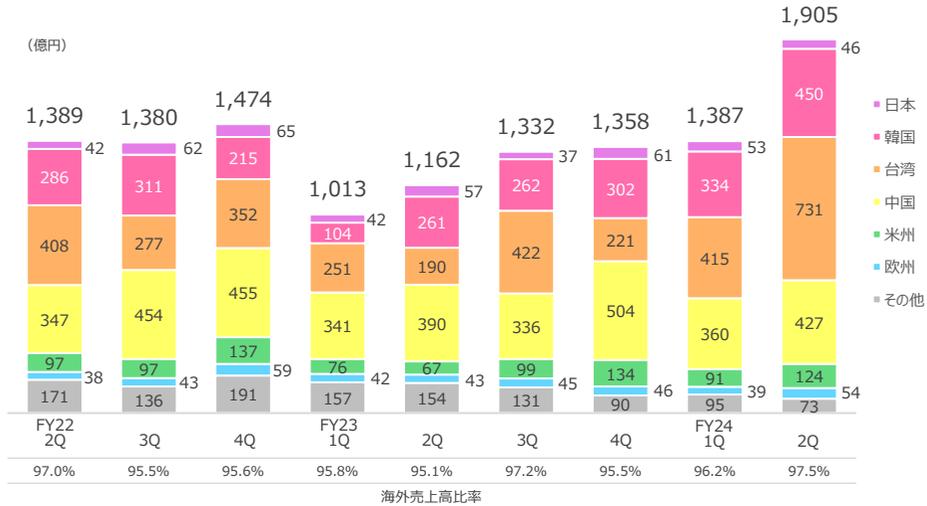
○ メカトロニクス関連事業

- ・ テスタの販売増に連動し、前期比でデバイス・インタフェースの売上が増えました。

○ サービス他

- ・ 安定的に増加するサポート・サービスの売上に加え、システムレベルテスト (SLT) においても、ハイエンドSoC向けの売上が伸びました。

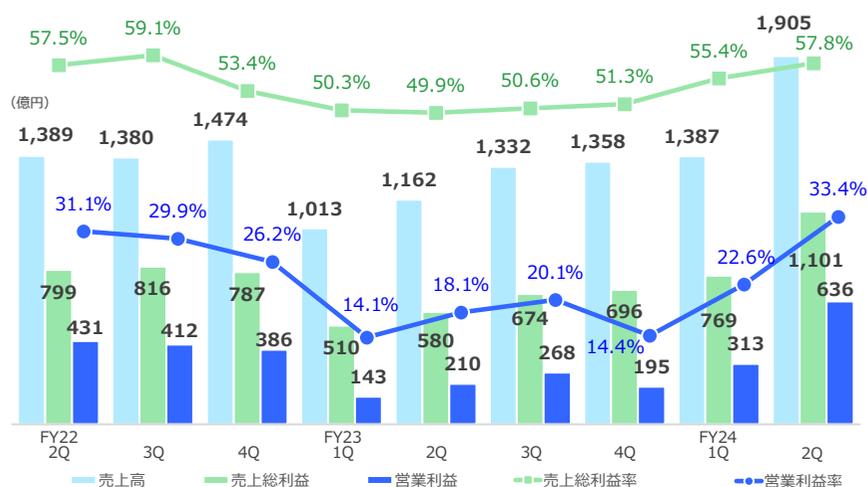
四半期売上高 地域(出荷先)別



○ FY2024 2Qの地域(出荷先)別売上高

- 台湾
1Qに続き2Qも、主に米国の複数ファブレスにおけるHPC/AI関連半導体の品質保証強化を背景に、前期比で関連するファウンドリ・OSAT向けの売上が伸びました。
- 韓国
DRAM向けを中心とするメモリ・テスト売上の増加に加え、HPC/AI関連でSoCテストの売上也増加いたしました。

売上高/売上総利益/営業利益



○ FY2024 2Qの売上高/売上総利益/営業利益

- 今回、特にハイエンドSoC 向けのテスト売上が伸長し、前期比で売上総利益率が上昇しました。
- 販売費および一般管理費等（その他収益・費用を合算）は、465億円となり、前期比でほぼ横ばいとなりました。

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

○ FY2024 2Qの研究開発費等

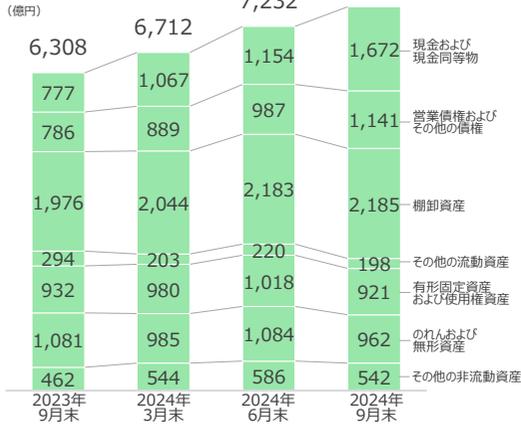
- 研究開発費、設備投資、減価償却費はご覧の通りです。
- 研究開発費は前期に引き続き高い水準となっております。

○ FY2024 2Qのキャッシュ・フローの状況

- 売上および利益が改善したことにより、営業キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フローが増加しました。

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



○ 2024年9月末時点のバランス・シート

- 棚卸資産は前期同等レベルです。当社売上が伸びる一方で、需要回復はアプリケーションごとに濃淡があります。需要の高まる高性能半導体向けテストでは、増産に向けた調達強化をしつつ、需要の回復に時間を要する製品群については引き続き棚卸資産管理に取り組んでまいります。
- 私の発表は以上です。引き続き、FY2024の事業見通しについてダグラスより説明いたします。

2024年度事業見通し

代表取締役 兼 経営執行役員
Group CEO

Douglas Lefever

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ADVANTEST®

事業環境と半導体テスト市場の動向 <2024年10月時点の見方>

事業環境

- 世界経済においては、半導体の重要性が高まる一方で、地政学リスク上昇による先行きへの懸念も継続
- 半導体市場は、AI関連の高性能半導体需要を中心に、引き続き堅調な需要を見込む
- 一方、AI関連以外の半導体需要は依然として軟調に推移

CY24 半導体テスト市場

- AIの進展が半導体の高性能化と生産需要の拡大を促進しており、旺盛なテスト需要が継続
- 旺盛なテスト需要に対し、当社のテスト供給能力を高めることにより、市場規模見通しの引き上げに貢献すると予想
- 半導体テスト市場全体では、AI関連向けを除いて、依然としてテスト需要は軟調であり、需要の回復はまだらな様相

	CY23実績	CY24推定
SoCテスト市場	約\$3.3B	約\$3.5B - 3.8B (7月時点推定:約\$3.2B - 3.5B)
メモリ・テスト市場	約\$1.1B	約\$1.7B - 1.9B (7月時点推定:約\$1.6B - 1.8B)

Source: Advantest

○ 事業環境と半導体テスト市場

- まず、事業環境について説明いたします。
- 世界経済において、半導体の重要性は高まり続けています。一方で、地政学的リスクの高まりにより、将来に対する懸念は続いています。
- 半導体市場は、AIデータセンタ関連の高性能半導体需要を中心に、引き続き堅調な需要を見込んでおります。
- 一方で、AIデータセンタ関連以外の半導体需要は依然として軟調に推移しております。
- 次に、この事業環境を踏まえ、暦年2024年の半導体テスト市場の見通しについて説明いたします。
- AIデータセンタの進展が半導体の高性能化と生産需要の拡大を促進しており、旺盛なテスト需要が継続する見込みです。この旺盛なテスト需要に対し、当社は引き続きテスト供給能力の強化に取り組んでおります。これにより、市場規模が一段と引き上がると見込んでおり、今年7月に引き続き、SoCテスト、メモリ・テスト共に市場規模見通しを引き上げました。
- 具体的には、SoCテストの市場規模をミッドポイントで33.5億米ドルから36.5億米ドルに引き上げ、メモリ・テストの市場規模をミッドポイントで17億米ドルから18億米ドルに引き上げました。
- 一方、半導体テスト市場全体としては、前述の通り、AI関連を除いたアプリケーション向けでは依然として軟調な状況で、テスト需要の回復はまだら模様であると言えます。

FY24業績予想

	FY23		FY24					前年度比		(参考)新旧FY24予想比較	
	実績			上期実績	下期予想	通期予想	増減額	増減率	2024年7月時点	修正額	
		1Q	2Q								
売上高	4,865	1,387	1,905	3,292	3,108	6,400	+1,535	+31.6%	6,000	+400	
営業利益	816	313	636	949	701	1,650	+834	2.0倍	1,380	+270	
営業利益率	16.8%	22.6%	33.4%	28.8%	22.6%	25.8%	+9.0pts		23.0%	+2.8pts	
税引前利益	782	319	607	926	699	1,625	+843	2.1倍	1,385	+240	
当期利益	623	239	454	693	527	1,220	+597	+95.9%	1,050	+170	
当期利益率	12.8%	17.2%	23.9%	21.1%	16.9%	19.1%	+6.3pts		17.5%	+1.6pts	
基本的EPS*1	84.45円	32.35円	61.56円	93.92円	71.09円	165.01円	+80.56円	+95.4%	-	-	
研究開発費	655	173	171	344	376	720	+65	+9.9%	700	+20	
設備投資	208	44	39	83	137	220	+12	+5.8%	220	-	
減価償却費	261	71	72	143	127	270	+9	+3.4%	270	-	
為替レート*2	1米ドル	143	153	154	154	147	4円 円安		143	4円 円安	
	1ユーロ	155	165	168	167	155	6円 円安		158	3円 円安	

*1: 当社は、2023年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。上記の基本的EPSはFY23期首に株式分割が行われたと仮定しての数値を記載しています。業績予想における「基本的EPS」は、2024年9月30日現在の「期末発行済株式数(自己株式を含む)」から「期末自己株式数」を除いた株式数を、期中平均株式数とみなして算定しております。また、下期予想の数値は通期予想から上期実績を差し引き、算出しております

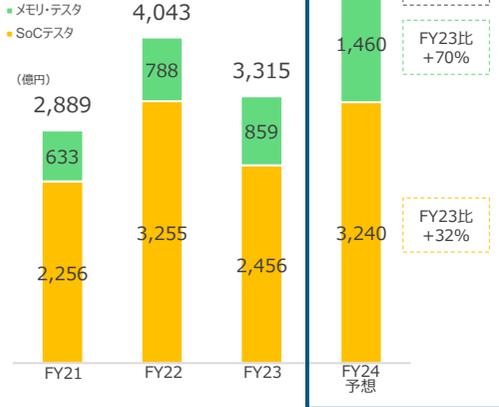
*2: 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+11億円です。対ユーロは-3億円です

○ FY2024の業績予想

- 通期予想をご覧の通り、上方修正いたします。売上高6,400億円、営業利益1,650億円、税引前利益1,625億円、当期利益1,220億円に通期予想を引き上げます。
- 売上高の上方修正は、主に2Qにおける SoC テスタの売上上振れ分を反映しております。
- 2Qは想定以上の製品を納入することができましたが、下期の売上高は、上期と比べてやや慎重な見方をしております。
- これは、下期の米ドルの想定為替レートを上期に比べて円高で見ていることに加え、SoC テスタの高い需要が継続する中で、現状の部材調達状況等を鑑み、当社が製品供給できるレベルで売上予想をしているためです。
- 引き続き、需要に追従すべく部材の確保も含めてサプライチェーン管理に取り組んでまいります。
- 通期の売上総利益率は55%程度を予想しており、売上増加および製品ミックス良化により、52%程度とした前回予想からの上昇を見込んでおります。
- 業績が好調の中で、増員を含め、より戦略的な投資を実施してまいります。その一環で、通期の研究開発費もやや引き上げます。
- なお、下期の予想の前提とした為替レートは米ドルが140円、ユーロが155円です。
- 営業利益に与える為替感応度について、最新のFY2024見通しでは、1円の円安時に対米ドルで+11億円、対ユーロで-3億円です。米ドル取引での売上が増加する見込みのため、今年7月時点より米ドルでの感応度を2億円引き上げております。
- 次に、売上予想の詳細を説明いたします。

FY24見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム事業
売上高推移



半導体・部品テストシステム事業

<SoCテスト>（2024年7月予想比 +320億円）

- HPC/AI向け顧客の納期要求に追従すべく、2Qから製品供給ペースを引き上げ、売上見通しを増額

アプリケーション別内訳	FY21	FY22	FY23	FY24(予)
コンピューティング・通信	60%	65%	60%	85%
車載・産業機器・民生・DDIC*	40%	35%	40%	15%

* DDIC:ディスプレイドライバーIC

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

<メモリ・テスト>（2024年7月予想比 +30億円）

- HBM向けの顧客の旺盛な投資意欲に対し、当社の製品供給体制を整備。下期は上期比で増収を見込む

アプリケーション別内訳	FY21	FY22	FY23	FY24(予)
DRAM	60%	60%	90%	95%
不揮発性メモリ	40%	40%	10%	5%

内訳比率は実数ではなく、5%近似値で丸めて表示しています

○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- SoCテストのFY2024売上予想を、今年7月の見通しから320億円引き上げ、3,240億円とします。
- HPC/AI向けの半導体の複雑化を背景に、顧客の旺盛な設備投資意欲は継続しています。第2四半期から製品供給ペースを引き上げているものの、ハイエンドSoC向けでは、当社の製品リードタイムは通常よりもやや長引きつつあります。顧客の要求納期に追従すべくこれからも邁進してまいります。
- メモリ・テストのFY2024売上予想は、今年7月の見通しから30億円引き上げ、1,460億円とします。
- HBM向けの需要が活況の中で、今期段階的に生産体制の整備に取り組んでおり、下期にかけて一段とメモリ・テストの製品供給力は向上します。そのため、下期は上期比で増収の見込みです。

FY24見通し（事業別）

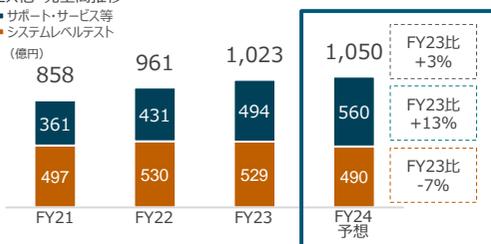
メカトロニクス関連事業 売上高推移



メカトロニクス関連事業 (2024年7月予想比 +20億円)

- テスタ需要増と連動し、デバイス・インタフェースの売上は前年度比で増加見通し
- ナノテクノロジー製品も堅調な販売を見込む

サービス他 売上高推移



サービス他事業 (2024年7月予想比 +30億円)

- 当社製品の設置台数の着実な伸びにより、サポート・サービスの需要は堅調
- システムレベルテストは、民生機器関連での不透明感継続を背景に、前年度比で減収見込み

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- ・ メカトロニクス関連事業の通期売上予想は650億円です。
- ・ テスタ売上が伸びる中で、関連するデバイス・インタフェースの売上も前年度比で増収見込みです。
- ・ また、ナノテクノロジー製品も堅調な販売を見込みます。
- ・ サービス他事業の通期売上予想は、1,050億円です。
- ・ サポート・サービスでは、当社製品の設置台数の着実な伸びを受けて、底堅い需要を見込みます。
- ・ SLT事業ではスマートフォン関連向けは依然として需要が軟調であり、また、テスト・ソケット・ビジネスも顧客エクスポージャーの関係から、低調さが見られます。そのため、全体としては前年度比で減収を見込んでおります。
- ・ しかしながら、明るい材料も見えてきております。半導体の複雑化、高信頼性要求を背景に、コンピューティングや車載プロセッサ向けなどでSLTを採用する動きがみられます。また過去数四半期に渡り、当社はコンピューティング、スマートフォンから車載用途まで、数社の新規顧客より選定いただきました。

自己株式の取得

- ✓ 株式の取得価額の総額: 500億円（上限）
- ✓ 取得し得る株式の総数: 900万株（上限）（発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合：1.2%）
- ✓ 取得する期間: 2024年11月1日～2025年2月26日

<第3期中期経営計画(MTP3、2024～2026年度)における株主還元方針>

- 1株当たり通期30円を最低限とする方針のもと安定的・継続的な配当を実施
- 総還元性向*は、MTP3期間の3年間合計で50%以上を目標とする

(ただし、成長投資機会の発生や事業環境の悪化などにより、これらの株主還元水準は見直される場合があります)

*総還元性向: (配当額 + 自己株式取得額) ÷ 連結当期利益

○ 自己株式の取得

- 次に株主還元についてです。
- 当社の株主還元方針は、第3期中期経営計画期間の3年間合計で総還元性向50%以上を目標としております。
- 今回、業績予想修正も踏まえ、最大500億円の自己株式取得を実施し、株主還元と資本効率の向上を図ります。
- また、取得し得る株式数の上限は最大900万株、期間は2024年11月から2025年2月までの4か月間です。なお、当スライドの13ページで示したFY2024のEPS予想には、この自己株式取得の効果を含んでおりません。ご注意ください。

その他トピックス

□ 統合報告書2024を発行

* Web Link : https://www.advantest.com/document/ja/investors/ir-library/annual/J_all_IAR2024.pdf

□ SoCテスト・システムV93000が発売から25周年

* Web Link : <https://www.advantest.com/ja/news/2024/20240808.html>

□ アドバンテストが2024年度「ポーター賞」（主催：一橋ビジネススクール）を受賞

* Web Link : <https://www.advantest.com/ja/news/2024/20241025.html>

□ IR技術説明会(SoCテスト・ビジネス関連)をウェビナー形式で11月28日に開催予定

○ その他トピックス

- 最後に、当社の最新トピックを案内申し上げます。
- まず、今月10月18日に「統合報告書2024」を発行いたしました。
- 次に、当社のSoCテスト「V93000」が、発売から25周年と大きな節目を迎えました。拡張性の高い単一プラットフォームを採用し、長きにわたって多くの顧客のご支持をいただいております。
- また、当社はこのたび、2024年のポーター賞を初受賞いたしました。この賞は、一橋ビジネススクールが独自性のある戦略によって競争に成功した日本企業や事業部を表彰するものです。受賞できたことを大変光栄に思います。
- 以上3件の詳細について、当社Websiteをぜひご覧ください。
- 最後に、IR主催の技術説明会について、今年は11月28日にSoCテスト・ビジネスを取り上げます。詳細のご案内は来月初旬を予定しております。
- 私の説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。



Facing the future together